

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。登壇の許可を得ましたので、ただいまより3番議員山口裕子の一般質問をさせていただきます。

本当に今議会最後であります。そして最終回、これが私も最後ではないとは思っておりますが、悔いの残らないように、この4年間の総括と思って、また新しい形でも提案していきたいと思っておりますので、本当に最後であります、しっかりとめり張りをつけて質問をしていきたいと思っておりますので、簡潔な答弁をお願いいたします。

それでは、きょうは3つのテーマで質問させていただきたいと思っております。第1番目が地域活性化について、第2番目が男女共同参画社会づくり推進について、そして、3番目がこれからの武雄市政についてお伺いしたいと思っております。

まず、本題に入る前に、総括としてきょうテーマに上げている分はいいとして、私としては本当にこの4年間、新武雄市に臨んでどんなふうな形になるんだろうと夢も膨らませて一生懸命頑張ってきたように思います。私としては、やはり子育て支援、障がい者福祉、そして環境問題、地域づくりの中では山内町の問題、あと農業振興、そして、一番私がここに来て活動しているということで、一番大きい問題で男女共同参画社会の推進、それにテーマを絞ってきたように思います。

この4年間の中で一番議論されて、いまだこの議会でもいろんな意見が飛び交っておりますが、市民病院問題ということでした。私は山内町の間人でもありましたので、はっきり言ってこの市民病院のかかわりが薄かったと思います。議員になりましていろいろと勉強させていただいて、今後、どのような形が私たち武雄市民にとって一番いいのかということもいろいろ考えさせていただきました。私としては、やはり1番目に命を考えた、命を一番大切に優先するものとして、また、市民の安心・安全、それと次に、やはり次の世代に負荷を残さない方法を選ばないといけないという形で、私としては民間移譲を選ばさせていただきました。

救急医療がなくなるということで、武雄市民の方は本当に心配も大きかったことが、この救急医療も再開して、あと、それにかかわる消防署の方も本当に長いこと患者さんを車に乗せたまま、いつも30分から1時間動けない状態があったということで、今はすぐ引き受けていただいて、そういう問題も解消したということも聞きますし、本当に私にとって子育て中の若いお母さんたちとか、私も子育て中ですが、救急車を呼ばなくてもすぐに受け入れてもらえるというところで、本当に市民の人が安心して利用できるという声をありがたく私のほうにも届けていただいております。そういう形でこの4年間が終わったんじゃないかなというふうに思っております。

私も自分なりに一生懸命提案させていただきました。私は障がい者福祉、小さい声、弱者の声、もう本当に私もこの声を届けたくてこの活動をさせていただいているようなもので、

市長も一番に身体障がい者の作業所、それから精神障がい者の2つの作業所、あとは育成会、知的障がい者の方たちの交流の場所、これから進む障がいの一元化ということで、山内支所にそういう施設を設けていただきました。さらにそこには交流の広場という形もでき上がりました。

そして、同僚議員もこの議会でたくさんの方が言われていますが、やはり私も障がい者にとっては一番の相談施設というのが欲しかったわけです。これがやはり必要に応じてこれを開設して、1人から、やはりもう相談の件数が多くなって、今3人の方を充ててもらって相談に乗っていただいているというところなんです。いろいろ言わせれば、これだけまずは整ったということが、本当に障がい者をいかに元気にして、外に一步踏み出す勇気をいただいたんじゃないかなというふうに思っています。もっと重度の障がいをお持ちで悩んでいる方とか、いろいろな形はありますが、あともう1つ、相談支援センターがもう少しプライバシーが守られないといけないということで、もう一步進まないといけないかなというふうにも思っております。

また、子育て支援では本当に子育て中のお母さんたちが望んでいた総合支援センターもできました。いいことに、これがまた年齢幅を広めて求められているということ、あと、キッズステーションもできました。そして、学童保育とかの整備環境も本当に進みました。

環境問題にとっても、ごみ削減で頑張っている地域、また、これからやろうという地域に特区補助もつけていただきました。これによって、この効果というのもあると思いますが、3月2日の佐賀新聞に「リサイクル徹底、奏功」ということで、佐賀県が1人当たりのごみ排出量で全国最少になったというのか、その記事が載っておりました。武雄市は6番目で、これもすごいことだと思います。1人1日当たりの排出のグラム数が710グラムですね、本当にこういう結果が出るというのは、町の方針というか、市の方針によって進んでいくものだと思いますので、またこれもさらにこういう力添えをいただいたらなというふうに思っております。

ということで、いろいろとありますが、きょうの本題に入りまして、地域活性化について入らせていただきたいと思っております。

まず、もう最後なのでいろいろと重複したりしたんですが、1番目に有害鳥獣対策についてお尋ねいたします。

私は、この中で地域活性化はいろいろあると思うんですが、国の基幹産業である農業というのが、本当に皆さん後継者が育たない、育っていないというのか、どこに問題が、原因があるのかわかりませんが、本当に農業の環境が乏しいと思うんですね。その1つに、やっぱり耕作意欲をなくすようなことがないように、この有害鳥獣対策、イノシシとかそういう被害が一番多いわけです。そこで力を入れてもらっていると思いますが、この新しく始まったですね、皆さんに知っていただくためにも何回もこれは上がってきたと思いますが、いのし

しパトロールが始まりました。やはり通りすがりに住民の方、市民の方がよくパトロールと書いた軽トラックをお見かけになるそうで、こういうお話をちゃんと聞いている方は、ああ、ああいうことをしているんだなというのがわかるんですが、ただ単に通りがった人は、車に乗ったままつうつう行って、何ばしよらすとかわからんみたいな、あれは何ばしよらすとかかなというように話がよく届くんですね。だから、再度どういう方針でこのパトロールがされていて、効果とか実績が上がっているんだということをこの場で御報告いただけたらなと思います。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お尋ねのいのししパトロールの事業でございますが、従来のイノシシ対策というのは農林商工課の中の農政係の担当者が担当しておりました。しかし、市民からイノシシがおりますよと、何とかしてくださいというときに、なかなか動けなかった面があったんですよ。そういうことで21年度、これは国の緊急雇用対策ということで、武雄市の一般財源はゼロで、全額国からの、これは県のほうに基金をつくって、そこから市のほうに補助があるということで、事業費としては約二千二、三百万円ほどございまして、8名のパトロール員を雇用して、それに猟友会のほうから指導員ということで4名配置をしております。そういうことで、1班が3名体制で、市内4班に分けて地区を配分してパトロールをしているという状況でございます。

そういうことで、パトロールの活動内容でございますが、まずは一番大きなのが、さっき言いましたように市民から通報があるということで、うちのいのしし課のほうに通報があれば、うちの職員がすぐパトロール員さんに携帯で電話をして、まず、そこのお宅に行って事情を聞くということで、その後、わなを設置するとか、あるいは周辺の環境をよくするとか、そういう指導をして、住民の負担を軽くしているというのがまず1点ございます。

それからもう1つは、イノシシが出るところはえさが結構あるんですよ。そこら辺の環境面の指導とか、パトロールをしながらそういう箇所を見つけて、区長さんとか、あるいは近くの方にそういう指導をするというのがございます。

それからもう1つは、イノシシの捕獲でございますが、今言いましたように指導員さんは猟友会の方ですから、パトロール員は免許を持っていないわけですね。しかし、その猟友会の方と一緒に回っておりますので、わなの設置が必要であれば、すぐわなを設置して捕獲をするということで、これについて今まで約100頭ぐらいの捕獲をしたという報告は聞いております。

以上がいのししパトロールの成果、効果でございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に御苦労あって効果が出ているということですよ。耕作している人からすれば、収穫前に稲とか全部イノシシが走り回って収穫することができなかつたりとか、本当に大変な思いをして収穫につなげて収穫の喜びを待とうとしているときに、やはりそういう被害に遭われていらっしゃるようなので、このパトロールが本当に活躍されて、市民のこの農業者にとっても、住民の人にとっても、本当に安心して暮らせる一つのパトロールというか、そういう形になっていっているということに対して、本当に私もうれしく思っております。まだまだイノシシの害は続いているようですし、少しは減ってきたとかという話も聞いておりますが、今後、この計画は3年というふうに聞いておりますが、どんな形でしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

この事業につきましては、21年度から3年間の計画でございまして、22年度についても県のほうに申請をしております。そういうことで、3年間は継続をするということで考えています。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

3年間は安心してこういうパトロールを続けることができるということですが、これですべてが解決することではないでしょうし、やはり3年後またたってみないと、まあ、イノシシが随分片づいたという形になっているかどうかわかりませんが、ぜひともこういう形で農業の方が本当に耕作意欲をなくさないような推進というか、そういうパトロールは続けていっていただきたいなというふうに思います。

また、本当に今は民家とか、冗談なのかわかりませんが、ゆめタウンにも出資するとかという話ですので、本当に安心して住民の皆様が過ごせるという形ででも、このパトロールが必要になっているんじゃないかというふうに思います。また、自給率を40%から50%に上げるという政策も上げられておりますので、やはり農業環境が整った形を推進してやっていかないといけないんじゃないかなというふうに思っております。

あと、これはちょっとはつきりわからないんですが、レモングラスのエキスがイノシシの対策というか、寄せつけないというふうには聞いていたんですが、まだそこまでは開発されていないんですよ。もし、わかればお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

レモンガラスのシトラールという、何ていうんですかね、要素というんでしょうか、がイノシシを寄せつけないということについては、もう学術的に実証されていて、実際どれだけ効くのかどうかというのは今研究をしていますので、成果がまとまり次第、また御報告を市民の皆様方、議会の皆様方にできるというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

こういう形で駆除ができるようになるといいかなというふうに思うんですが、昨年から防止策として、一番即効性があるのはワイヤメッシュとか電気牧さくという形で、国の補助を得て鳥獣害防止総合対策事業として各地区上げられて実施されたと思うんですが、これはすべてが終わったわけでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お尋ねの防止さくでございますけれども、これについては、以前は有害鳥獣の駆除の対策協議会の中で、予算的にはそう大した額じゃなかったんですが、ことしの21年度から、先ほどありましたように、農林水産省の補助事業を受けまして事業実施をしております。

21年度の実績を申し上げますと、まず、電気牧さくですね、これが16行政区で154台の設置をしております。それから、武雄市では初めての取り組みだったんですが、ワイヤメッシュですね、さくを設置して、イノシシが入らないようなさく、これが7,784メートルということで、これは9行政区のほうで設置をしております。

それから、地元の負担ですけれども、国の補助金が2分の1、50%ありまして、武雄市がそれに1割上乘せをして、地元の負担は4割ということでお願いしております。これについてはまだ国の補助事業がありますので、昨年秋ぐらいから各区長さんを通じて今取りまとめをしております。今現在、22年度の申請の予定ですが、電気牧さくが16行政区で84台、それから、もう一方のワイヤメッシュが6行政区で110キロの要望がありましたので、一応国のほうに申請をする予定でございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

じゃあ、一時的なのは一つ対策が終わって、平成22年度はまた16地区の84台と、6地区の110キロメートルということで今上がってきて、これにかかっているというわけですね。

2つお願いがあるんですが、こうやって次に上がってきた分はまた対策をとれるということですよ。やはり一度には片づかないでしょうし、この対策を続けていってほしいということが1つと、あともう1つは、これは区である範囲以上にならないとできないですよ。どうしても自分の裏の小さい畑があるところにしたいんですが、自分でするには結構お金がかかってというところなんかは少しでも補助をして、まとまらない地区というか、そういうところにそういう対策ができないかということのお尋ねがありますが、それはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お尋ねの件につきましては、うちのいのしし課のほうにもそういう要望が何件かございました。ただ、さっき言いました牧さく、あるいはワイヤメッシュにつきましては、国の基準が最低3戸以上が条件ということで、個人さんのほうに補助をするとすれば相当な量になるだろうということで、まずは地区の方に話をして、とにかく自分のところだけしても周りからまた入る可能性がありますので、できればその地区全体で取り組んだほうがいいだろうということで、今のところ国の基準に合わせてやっておりますので、そこら辺については先ほど言いましたように数、金額の問題がございますので、もう少し検討をさせていただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと部長答弁に補足をいたします。

原則論としてはそうなんですけれども、例えば、山内町の鳥海であるとか、今山、大野等々を歩いていると、各戸が物すごくやっぱり離れているんですね。したがって、ここで地区でまとまってください、3戸以上となった場合には、狭いところの、もう10戸以上ぐらい広がりがありますので、それはちょっと国とも調整をいたしますけれども、単に3戸以上というしゃくし定規じゃなくて、もう少し面積要件ですよ、ということもあわせて提案をし、それがもし受け入れられない場合は私たちのほうで何らかの、何というんですかね、補足じゃないですけども、措置を考えてみたいというふうに思っています。このイノシシの関係でのお悩みは個人の方のお悩みが一番多うございましたので、それはそれできちんと受けとめたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。本当にこれを要望してある方は、やはり規則がここまでですか、その枠外ですとかと言われるのが一番こたえるんですよね、だから、やっぱりその状況に応じて対応していただけるというのが一番ありがたいことじゃないかなというふうに思います。

やはり先ほども言いましたように、自給率を40%から50%に上げるとか、農業に対して元気な農業とか明るい農業とかいろいろ言われますが、本当に実際の現場がどれだけ厳しいかということ、まず知る必要があると思います。それに対して本当に丁寧な対策を練ることが、私から見れば一番じゃないかというふうに思います。やはり農業生産というか、市長がありがたいことに、いつも所得向上、所得向上とっていただいておりますが、その農業生産が一番経済的に弱いところに、個人で対策費用を負うというところは一番厳しいんじゃないかというふうに思いますので、そこら辺にやはり行政からの補助というか、対策が必要になってくるのではないかなと思いますので、もう一度このところで、市長にやはり今後そういう対応ができるように進めていただきたいと思いますが、見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

イノシシの問題に関しては、これはいのしし課を中心としてのいししパトロール、いのしし会議の皆様方の頑張りで、実はことしは相当程度減っています。ただ、これは年間によって、下がった次の年はまたふえるという不思議な関係になっていますので、来年はどうなるかなというふうには思っているんですけども。

ちょっと申し上げたいのは、今回、イノシシの対策は日本で有数と言われるぐらい進めてまいりました。しかし、その中での課題としては、先ほど出たように、国の基準にどうしても合わないということ、地域の実情が合わないというところがありますので、それは市のほうで、地域の実情に応じてきめ細かな対策、優しい対策をぜひしていきたいというふうに思っております。国の包括的な支援で足りない部分は、市のきめ細やかな補助なり対応なり、研修なりを組み合わせることによって、例えば、山内町で農業をして本当によかったと言っただけのように進めていくことを今考えおります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。本当に意欲をなくさないような、向上できるような市民の方の気持ちを受けるということが一番大切じゃないかなというふうに思います。

続きまして関連ですが、2番目の地域ブランドの確立についてお尋ねいたします。

地域ブランドは、今、同僚議員さんたちからもたくさん上がってきておりましたが、話題になっているのはイノシシ肉とレモングラスですね。1番目の鳥獣対策につながって、イノシシの肉が販売されているわけですが、やはり私は農業の所得向上とかも言われますが、本当に休耕地の活用とか、今、農業問題ではたくさんの手を打たないとやっていけない問題が出てきていると思うんですね。その中でも市長が先陣を切って地域ブランド、武雄のブランドをつくるということは、すごく私はいいいことだと思って期待しております。しかし、これを市民全体で、やっぱり議員たちもそうですが、これはもちろん検討をいろいろな形でしないといけないと思いますが、やはり心を合わせて1つのブランドを温めていくというか、つくり上げていくという、そういう気持ちが本当に必要じゃないかなというふうに思います。

それはたびたび私も上げさせていただいておりますが、徳島県の葉っぱ産業で今有名になっておりますが、上勝町ですね、その葉っぱ産業の創設者である横石さんの話が、昨年、武雄市の山内町の旧議場で講演会がありました。そのときのお話を聞いても、本当に大変な苦勞をされてブランド化をされています。何回も何回も高級料理店とかに足を運んで、何か包丁まで飛んできたという話も聞きましたが、やはり始まってから形になっていくまで数年が一番厳しいところではあるかもしれませんが、ブランドとしてつくり上げていくには、本当に心を一つに合わせていって、それをみんなでいいものにやっっていこうという気持ちが大切じゃないかなというふうに思っております。

あと、もう1つが川上村ですね、それも例に挙げましたが、長野県、高原レタスがブランドとして有名ですが、そこも村長さんが20年かかってこのブランドをつくり上げておられます。そのやり方も、毎年、若者をアメリカのほうに研修に行かせているという形、また、詳しく調べれば、村費としてたくさん出されてここまでブランド化しているという話がありますが、こんなふうの一つ一つ、今は2つのブランドがちょっと挙げられていますが、こういう形で何もしなかったら変わらないと思うんですね、だから、ぜひともやはりチャレンジして一つ一つをつくり上げていっていただきたいと思います。そのところで市長の見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、市長にならせてもらう前に、ある政治家の方から、「出るくいは打たれるけど、出過ぎたくいは打たれないから、樋渡君、出過ぎたくいになれば大丈夫だ」と言われたから、出過ぎたら100倍ぐらい打たれました。その中で、やっぱりそういう、何というんですかね、頑張ろうという、例えば、ブランディングなんかまさにそうです。頑張ろうというのを私たち大人の世代が応援するというのが一番のブランド化なんですね。したがって、上勝町も川上村も20年やっぱりかかっているんですね。ですので、目先のことでああでもないこう

でもないということよりは、温かな気持ちで、優しい気持ちでやはりそのブランド化を進めていくということが、私は大切なのかなというふうに思っております。

一例を出しますと、これはイノシシの例なんですけれども、角味噌醤油さんのとっしん汁ですね、これは2,000つくっていただいて、一月足らずでもう1,000個売れています。売れているんですね。それと、これは新聞に載りましたが、角さんのところのとっしんカレー、ベリーグッドです。それと、これは山内町の山下屋さんのソーセージですね。これも大体、黒髪の里等でも売っているんですけど、なかなか品薄になっているということ。あるいは、これはやまんくじらさんがそのままつくっておられるスモークハムということで、だんだんこれは品数がふえていくんですね。

ですので、ぜひこれを自分たちのものとして自分たちも食べてみるということがすごく大事で、やっぱり地元の皆さんたちが、これは確かにおいしいです。おいしいということがやっぱりロコミ力で広がっていくと、私は川上村も上勝町も20年と言いましたけれども、上勝町の方にも、川上村の方にも私会いました。武雄が一番スピードが速いということでありますので、ぜひ、そういう意味で温かい気持ちで、優しい気持ちで育てていただくことをお願い申し上げまして、私の答弁にかえさせていただきます。ありがとうございます。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

そうですね。本当に自分もそうですが、やはり武雄市が元気になるよという思いですよ、で、みんな向かっていると思うんです。本当に私もレモングラスというものがそまでお茶としてどうかなと思ったら、次々にいろんな商品が出てくるし、それにかかわっている人は何かしら夢を膨らませていくという形につながっていつているのではないかと思います。

お茶といえば、やはりもともと日本茶があるんじゃないかとか、私もそういうことを市長に言ったと思うんですが、そうしたところ、やはりこのレモングラスと日本茶をブレンドしたティーが出たり、紅茶とブレンドしたものが出たりというふうに、商品も次々に新しく出ていつているので、ぜひとも武雄市の元気としてこういう商品が育っていつてほしいなと思うし、自分も武雄から出たときにお土産は何を持っていこうかというときに、やはり一番話題になっているものを持っていくと皆さん喜ばれるし、そういう盛り上げ方というかな、そういうことにぜひとも市民全体が沸くような仕掛け方をしていただきたいなと思います。それに持っていくまでには、やっぱりそれはおかしいんじゃないかとか、これはどうだというのはもちろん大切だと思いますので、本当にしっかりと温めてブランドの確立をいつていただきたいと思うし、ほかにもいろんなブランドが出てきていいんじゃないかなというふうに私は思います。

また、次の項目もそれに関連してくるんですが、3番目の視察観光についてということですが、これは行政視察とかが川上村とか上勝町で、私が先月、ごみゼロ・ウェイスト作戦の福岡県の大木町に行ってきましたが、そこなんか新しい取り組みで、行政視察とか環境の勉強に来られる視察の方を観光に結びつけるというやり方で、今、視察観光というような形で打ち出されておりますので、前回、ちょっとではありましたが、市長もどうですかというふうにお伺いを立てたと思います。

一つ言わせれば、大木町は環境のことの先進地ですので、うちの団体でそこに行きました。行政のほうからも2人ついてこられてお勉強に行ったわけですが、まず、システムが見事だなというふうに思ったのは、インターネットでの研修申し込みになっているわけですね。その中で、研修費とお昼のセットになって1,500円を選びますか選びませんかみたいな選択になっています。そのお昼は地産地消のシメジとか、そんな産物を使ったお昼が提供されるわけですね。場所は、そこは総合福祉センターになって町営の第三セクターですが、町民の方が利用するプールと温泉がある場所になっているんですが、そして、4月にオープンするようになっている道の駅はまだないんですが、小さい直売所がそこにありました。そういう研修の受け入れですね。そこで、本当にはっきり資料代まで組んで1,500円というふうになっています。そして、研修も本当にみんなが満足でした。もうこんなにお見事な勉強をここで受けるとはだれも思っていないくて、本当に皆さんが時間が足りないぐらいに行政の担当の方に話を聞いていました。

そのときに、一人一人にお茶はもちろん出してあるんですが、大木町はイグサの産地だったそうです。今は減っているそうですが、そこにお茶のコースター、イグサのコースターがありました。そして、農業法人とか、たくさん法人団体があるんですが、そのシメジのつくだ煮が、小さい袋が置いてありました。研修が終わった後、これは何かなと思うと、行政の担当の方が説明されて、大木町の特産のイグサですということ、どうぞお持ち帰りくださいということと、シメジのつくだ煮は女性グループの農業法人でつくられたものです。どうぞ一度御賞味くださいという形でお土産がセットして、すべてが満足だったという形なんです。お土産も何も私たちは持って行ってなかったんですが、本当にお昼御飯を食べて、地産地消の食事をして、その小さい直売所でシメジとかの、JAとかに出せない3級品とか4級品みたいですが、それが本当にみんな全部なくなるように買い求めたくなるわけですね。こういうのをシステムというか、変ですが、武雄市も何かしら、全部はこういうふうにはいなくても、アピールするところが、要所というか、そういうのがきちっとできていたら、イノシンはどこにあるんですか、レモングラスはどこで買うんですかとか、いろんところで聞かれなくても、こういう方法もとれるんじゃないかなということで提案しているんですが、市長の見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます前に、一つ非常にうれしいことの報告がありました。きのうの夜、大阪府議会の議会運営委員長さんから、ことしの——これは私が当選させていただくことが条件だと言われましたけれども、5月の下旬に大阪府議会の開会日に講演をしてほしいと、府議会の本会議場で講演をしてほしいということでもあります。これは、対象者は大阪府議会議員110人の皆さんと橋下知事を初めとする執行部の皆さん、そして府民の皆さんたちが聞いていただけるそうであります。

その中で、なぜ私ですかというふうに申し上げたところ、今、武雄市が日本で一番元気だということで、例えば、そこで出てきたのがレモングラスであったり、病院の民間移譲であったり、イノシシであったり、さまざまな取り組みについて、ぜひ市民を代表して説明をしてほしいということでありましたので、橋下知事にもお目にかかれますので、これはもし時間が許せば、私はぜひそれをお受けしたいというふうに思っています。

なぜこのことを最初に申し上げたかという、これは必ず話題になります。大阪府議会で呼ばれるのは、東京都の副知事に続いて私が2番目だそうです。となると、これは必ずニュースに出てきますし、これでまた視察がふえます。私も大阪府議会で言おうと思っているのは、肝心なところは武雄市でお話ししますから皆さん来てくださいということで、えさをやろうと思っていますので、そういうことからして、これはシステムを考える必要があるというふうに思っていました。

先ほど山口裕子議員からありましたように、来ていただいて、御視察、御見学していただく方もハッピーになりますし、私たちもハッピーになります。多分、これはいろんな方々がハッピーになるということからして、ぜひシステムを考えたいというふうに思います。そして、いろんなコースがあって、議会を代表して杉原議長にお目にかかさせていただくこともあろうかと思うんですけれども、いろんなコースというか、ということをぜひ観光協会、商工会議所、商工会含めていろんなところと、JAの皆さんも含めて検討をして、これをホームページに、インターネットに載せて、もっと簡単に気軽に来られるようなシステムをつくっていきたいと思います。そういう意味で5月の、ちょっと日にちは忘れちゃったけれども、下旬の大阪府議会での講演は市民を代表して行きたいと、それで大いに武雄をアピールして、たくさんの御視察、観光客の皆さんたちを引っ張ってきたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

先の明るい話でうれしくありますが、本当によその町とかに行ってみて自分のところに気づくことがあったりと、資料代を取るなんてと思いますが、やはり資料代と食事をして、も

う大満足ですよ、資料代がちゃんと入っているから、お土産は別に持っていかないでいいだろうと思ったんですが、逆にもう気の毒だなというぐらいに、もっと何かこちらの産物でも持っていくべきだったかなという気持ちになるぐらいなシステムのつくり方をしてあったので、そこも本当に視察が多いそうです、大木町もですね。

だから、ぜひとも今ですよ、武雄市だって本当行政視察もそうですし、いろんな意味でのしし課のこととかいろんな形でよそからお客さんが見えになっていると思いますので、ぜひとも宿泊地とか、そういうところもセットした感じでアピールされると、本当にこれよりまた武雄の元気につながっていくんじゃないかなというふうに思っています。何か一連してつながっているというか、そういうものがあつたらいいなと。それは庁舎のロビーとかでも買い求められるような、何かそこでイノシシの肉とかもそうですし、レモングラス商品でもそうですし、行政視察に来た人がそこで買わなかったにしても、いつでも見られる——見られるというか、ああ、こういうものがあるんだというような形のつながりがいいんじゃないかなというふうに思いました。

大木町は、研修室の中にバイオディーゼルのエコというか、そういう活動をしていますので、そこでとれた菜種油も売られていましたし、リサイクルセンターの堆肥と液肥もそこで販売されていたんですね。だから、やっぱりそこでみんながもう買いたくなるし、ああ、使ってみたいという形がありますので、何かしらちゃんと目に見えるというか、研修とか受けたときにつながっていくような形がいいのかなというふうに思いましたが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

すみません、もう一度。ちょっと御質問のどこをすみません。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

すみません、念を押して聞いたんですが、行政視察とか来られるんだつたら、今先ほど言いましたように、研修室にそこのお勧め品が置いてあるように、私たちが行った環境の勉強の研修室に品物がちゃんと置いているわけですよ。あとは、この庁舎内とかロビーとかにたくさんのお客さんも来られるし、視察に来られますよね。そのときにその商品が買えたり見えたりするという状況にはならないのかなというふうに思ったんですが、いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今でも行政視察にお見えになった場合には、一部、例えばイノシシであるとか、レモングラスであるとか、黒米であるとか、その用途に、御視察のテーマに応じて置いてあることは置いておりますけど、ただ、それをちょっと我々も控え目でありますので、大々的にはしておりませんでしたので、これもまたよく観光協会と、あるいは商工会議所、商工会とお話をしながら進めていきたいと思っています。

これ、ちょっとロビーにそのまま置くと、あくまでも市役所の目的というのは、例えば住民票の交付であるとか、そういう市民相談でありますので、これは視察とロビーということに関して言うところとちょっと分けて、お越しいただいた方に買っていただけるようなものをテーマテーマに応じて、例えば、会議室で即売をすると、10分以内を買ってもらったら1割引きとかいってさせていただいて、これが地域の皆様方、市民の皆様方の少しでも地域の所得の向上につながっていくように、行政視察とそういう連携を進めていきたいというふうに思っております。前田議員がそうそうとおっしゃっていますので、非常にうれしく思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

すみません、いろいろ質問の仕方が悪かったかもしれませんね。でも、何かそういう整ったアピールの仕方ができたらいいかなというふうに思っております。

そしたら、2番目に行きます。男女共同参画社会づくりの推進について、お尋ねいたします。

議員になって一番最初に男女共同参画社会づくりの質問を上げた途端に、もう女が強かとかいうようなやじが飛びました。今飛ばなかったからよかったなというふうに思っておりますが、本当に男女共同参画に対しては誤解が多いところもありますので、ぜひとももっともっと推進して、いい社会づくりを進めていかないといけないかなというふうに思っております。

大体私がいつも思っているのは、毎年、男女参画課が市民の実行委員と一緒に、ことしは1月23日でした、男女共同参画推進イベントとして、講演会とか、いろんな女性たちの活動の場があったりして啓発活動がとり行われておりますが、そのときに、いつもその資料の中に武雄市における地域での男女共同参画実態調査というのが載せてあります。前回は質問でちょっと上げさせていただいたんですが、その中で、なかなか区長さんとかでは武雄市が目指している40%とかにはいきませんが、それでもことしの資料は107の地区の中、100の回答だったんですが、男性99人の区長さんに女性が1人区長さんが入っているようになっています。だから、絶対だめみたいな世界から少しずつ女性もできるところで、こういう形

が進んでいるんだなというふうにかがえます。

あと自治公民館長さんが、男性が99あるところ女性が1人ですね。もうこういう公民館長さんとかは、もう少し女性たちが入っていいところではないかなというふうに私は思っています。あと、副区長さんや区長代理さんが、男性が80のところ女性が1人ですね。会計さんは、男性が88で女性が6人という形で実態調査が出ておりますが、こういう報告を受けて、市長は23年度には武雄市において参画の推進の目標値を、市長の具約は平成21年度までに40%ということでしたが、進みぐあいというか、市長がどういうふう意識を持っておられるか、お尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の具約並びに市の計画では、平成23年度までに審議会、委員会等の委員の女性の参画の率なんですけれども、40%という目標を掲げておりましたが、平成20年度末の参画率は33.6%であります。そういう意味でいうと、ちょっと私の具約は、もう現時点ではとても40%は超し得ませんので——ああ、そうか、23年度まででしたね。ですので、私の具約はもう切れますので、そういう意味でいうと、ただ、ここから先、6.4%伸ばすのもなかなかしんどいかなとは思いますが、お一人でも多くの女性の方の参画をお願いしたいというふうには思っています。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にこういう活動ですね、啓発活動もこつこつのことだと、少しずつだと思っんですね。このイベントも旧町の平成15年から毎年行われていることで、平成18年は新市になってもう4回、このイベントがとり行われております。最初は男性の参加も少なかったりしていたんですが、今は区長さんたちとかいろんな男性の方も、やはり今の社会において知っておかないといけないという形で参加もふえてきておりますので、急速にこういう意識は高まっていくものではないかなというふうに思っております。

しかし、ことしの2月4日の佐賀新聞で、本当にちょっと残念だったんですが、女性参画度、佐賀県は36位に後退ということだったんですね。本当に世界でも日本は先進国なのに、とてもおくれてます、日本全体としてもですね。佐賀県も頑張って推進度を上げていたんですが、よその県のほうがもっと意識が高まってきたということで、2つぐらい下がってしまったという形なんです。だから、世界的に女性たちというか、女性も男性も意識改革をして社会づくりをしていこうという流れですね、そういう形が十分に広がってきてはいると思っんですが、なかなか佐賀県というのは男尊女卑というか、本当にそういうところでは根

強いものがあつたので、先進地的にアバンセとかの活動場所とか、十分にたくさんの推進活動をしているところではありますが、残念ながら佐賀県がちょっと後退してしまいました。

武雄市においても、男女参画課や民間の方の活動により随分意識は高まってきていると思うんですね。しかし、この間のイベントのもう一つ一番下、前も上げましたが、出不足金について、まだ男女差があるというところですね。地区によっては、合併当初18年の調査では、出不足金の男女差がある地区は32地区でありましたが、今回、4年たったところで地区は19地区に減少していますということで、随分そういう意識がなくなっているとは思いますが、作業的にやはり本当に男の人の労働が必要で、女性はとてもそういう労働はできないなというところで、最初は格差が出不足金という形についていたんじゃないかなと思うんですが、今の社会状況を見たら、やはり少子・高齢化というか、高齢化が進んでいますので、年とったおじいさんとかおばあさんもそうですが、同じように作業に出るわけですから、やはりそこら辺で女性が出た場合にだけ格差があるというのはおかしいんじゃないかなというふうに思いますが、市長の見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この出不足金の問題は、もう3年ほど前でしょうか、山口裕子議員から御質問があつて、私もそこで勉強して、ああ、こういうしきたりというか制度があつたんだということに気づかされて、あのときの一般質問が多分大きな効果を呼んで、もともと平成18年度合併当時あつた出不足金、32地区あつたのが19地区まで減少していると。それで、いろんな区長さんとお話をすると、やっぱり変えていきたいということをおっしゃる区長さんたちもたくさんいらっしゃいますので、これは急にはちょっと無理かもしれませんが、地域の実情がありますので。ですが、徐々に徐々に改善の方向に出不足金の関係についてはいくのかなという、私は明るい見通しを立てています。やっぱりこれも一般質問における山口裕子議員の質問が私は端を発したということをおもっておりますので、この場をかりてお礼を申し上げたいというふうに思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に地区によってですね、公役のあり方とか、労働というか、そういうところも違ってくるので、一概には言えないと思いますが、今の社会状況の変化ですね、やはりそういうことを考えれば、老人の方が出られても、子どもがかわりに公役に出ても、本当にそういうところで差がないようになっていくのが本当じゃないかなというふうに思っております。

道づくりとか、公役全員が出席して、お盆とか、お正月とか、そういう区が管理する作業がありますが、そういう大変な仕事とか、もう本当に手に負えないというか、そういう一番労働的に盛んな年齢の人が少なくなっている状態で、各地区手に負えないような状況も出てきていると思うので、やはりそれは行政がお手伝いもしなくてはいけないようになってくると思いますし、あと、もう1つ寄せられているのは、ちょっとうちのほうで今山大砂古林道の作業があるわけですね。その作業も主に夏場ですが、地権者で林道組合という形で林道の管理を任されていますが、やはりこの作業もイノシシの害で、もう本当に側溝が崩れたりとか、そういう作業が大変になってきて、その地権者で、その林道の組合で作業がもう高齢化してできないような状況になってきているということで意見が寄せられております。

男女共同参画の不足金とか、ちょっとそういうのに兼ね合わせて言っているんですが、そういうふうに社会の状況が変わってきていますので、やはり今まで行政がその管理をお願いしていたところとか、そういうのが少しずつあり方とか見直しが必要になってきているんじゃないかという形でちょっと上げさせていただいているんですが、やはり林道、そういう手に負えなくなったような管理を、今後、市とかで見てもらえないかという状況も出てきております。だから、区の道づくりとかそういうところもそういう状況が出てきているんじゃないかというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

特に周辺部での高齢化、非常に問題になっていると思います。今言われるように、イノシシが道を荒らすとか、側溝を荒らすとか、そういう現実があるということで十分認識をいたしております。どのようにするかは今後検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

いろいろな状況の変化で、地権者の方が地元におられなくなっている場合とか、あと高齢者になっている場合ですね、やはりどうしてもそこが女性の家族になっている場合は女性が出ますよね。それで労働が担えなくなっているような状況が多分できてきているんだと思います。だから、社会においてもやはりいろいろナストラに遭ったり、お父さんが、旦那さんが仕事をなくしたりということで、女性がパートとか、もう本当に朝から夜中まで働くような形で過剰な労働時間になったりとか、やはりそういう意味では、女性も男性も男女共同参画という意味では、社会づくりとしてともに働きやすく、暮らしやすく、子育てがしやすい地域づくりというところで、今からますます男女共同参画社会を考えていかなければならないと思うんですね。

相談センターの件とかも今までに上がっておりますが、本当に男性のほうは必要以上の責任を負わされてというか、負い過ぎてうつ病になったり、自殺に至ったりという傾向が出ているというふうなことも言われておりますので、そういう意味では武雄市も男女共同参画、あと悩み相談というか、いのちの電話とか話が出ておりましたが、武雄市も昨年4月に相談センターが開設されました。月木2回の開設だそうですが、たくさんの方の相談があっているそうです。また、民間のほうでも火曜、木曜、金曜日と3回相談を北方のセンターでされておられるようです。だから、ぜひとも官と民が一体となってこういう支援をしていくべきじゃないかというふうに思っておりますが、それに対しても市長の見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

全くそのとおりだと思います。官の長所、公と言いかえたがいかもかもしれませんけれども、公の長所と民の長所を組み合わせ、1足す1が5、10となるようにして市民の皆様たちを守っていく、あるいは本当に、言い方はきついかもかもしれませんけれども、救っていくような、そういうつながりのあるいろんな施策をやっぱりしなければいけないと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

ありがとうございます。本当にこういう意識改革というのは、こつこつとは思うんですね、そんな一度に変わっていくものではないですが、急速に社会状況が変わっている、そういう相談支援とか、武雄市がバックアップしないといけない部分というのは、それは急いで対応する必要があると私は思います。一人一人の意識啓発は、やはり家庭から地域からお互いが助け合うような社会形成が今からは必要になっていくんじゃないかなというふうに思っております。一概にいろんな面で男女共同参画40%なんて、それは無理なことだと思っております。この議場を見てでも、40%といえば三四、十二人で、女性が12人という形になるわけですよ。でも、一度にそういう形も望めないし、やはりそれぞれの意識改革とか風習慣習とか、地域のそういうことも変わっていかなければ、土台というのが変わっていかなければ、女性たちもその場に出ていくのはなかなか難しんじゃないかと思っておりますので、やはり意識啓発と相談支援とか、そういうところでは行政のバックアップを求めたいと思います。

では最後に、これからの武雄市政についてということですので、私も市長もちょっとわからないことなんです、やはりこの4年間というものをつないで、今からどういう時代になっていくかということを考えてときに、たくさん話題になっておりましたが、私としてはやはり少子・高齢化に対応したまちづくりということと、資源を大切に作る循環型社会づくり

ということ、あとは今述べました男女共同参画の社会づくりとか、いろんなものにつないでいってほしいなというふうに思うんですが、何回もみんなのバスというのが、仮称でしょうけど上がっております。これが一番地域として、周辺部としてはたくさん声が上がっているところであります。

それと、梅野有田線の県道の拡幅といいますか、歩道をお願いしているところですが、車道の拡幅よりも歩道の確保ですね、これが本当に一番みんなが早くしてほしいところなんです。それは、自分たちの社会生活で、健康づくりでウォーキングとか、歩道があればウォーキングによく人がすれ違いますし、うちの地域では病院に歩いていける地区なんですね、それと学校でさえ歩いていける地区なんですけど、車がそうやってぎりぎりまで走りますので、本当に危なくてそういうゆとりがない、歩くというゆとりがないわけですね。だから、やはり市民の安心・安全、そして今からの社会づくりといったところでは、やはりみんなのバスの連携と歩道の確保ですね、一番危ない箇所に早く歩道を確保してあげることが一番だと思うんですね、これからの武雄市の市政としてですね。そういうところで市長の答弁を聞きたいと思いますが。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

山口裕子議員からありました、先ほど2点例が出ましたけれども、これは必ず、もし市長に当選させていただくとするならば、皆さんたちの意見を聞きながらやってまいりたいというふうに思っております。

4年間を振り返って今思うと、水道料金の引き下げ、あるいは固定資産税の引き下げ、介護保険料の引き下げ、乳幼児医療の無料化を就学前まで引き上げさせていただいたと、これは、どれもこれも議会の皆さんたちのおかげであります。いまだかつてなかなか手がつけられなかった、だれも手をつけられなかったものをここまでできたということについて、議会の皆さんたちにお礼を申し上げるとともに、この4年間というのは、市民の皆様たちの重荷を1つでも2つでも減らすように、負担の軽減を第一に考えて、これは市民病院の民間移譲もそうであります。将来の重荷をここで減じるということで、負担の軽減ということが一番やってきたことかなと思います。

もし、皆さんたちとともに再度仕事ができるということになれば、次は、私は地域所得の向上にあらゆる施策、あらゆる知恵を絞って皆さんたちの意見に耳を傾けながら進めたいと思います。これこそが4年前、私が志を立てて帰ってきたときに、ぬくもりのある元気な武雄市ということ掲げて、この気持ちは今でも全く揺らいでおりません。

その中で1つだけ具体的に申し上げますと、チャンスです。確かに不況であります。いろんなさまざまな諸問題がありますけれども、今度病院が民間移譲されることによって、さま

ざまな税収が上がってくるのと同時に、私は健康と医療を中心としたまちづくりをぜひしたいと思っています。これがあることによって、恐らく市民の皆さんたちは24時間、365日の救命救急医療がいつでも受けられるという非常に恵まれた環境にあります。そのためには、医師会の皆さんたちの御協力がぜひ必要であります。

私は、医師会の皆さん方とぜひ仲よくしたいと思っております。それは、とりもなおさずこれです。私、これをいつも持っているんですね。これはどの新聞かという、リコールに伴う選挙の後に、私は古賀医師会長さんのところに参りました。そのときに、これは佐賀新聞に書いてあるんですけど、「樋渡市長と医師会雪解け」と書いてあるんですね。このときは運営協議会の話でしたけれども、私もよく覚えております。古賀医師会長さんは選挙結果に触れ、移譲についてはある程度、民意が得られたということで、特別言うことはないと言われて、協議会の参加に応じる姿勢を見せたということも書いてあります。この医師会の皆さんたちの気持ち、特に古賀医師会長さんの気持ちは変わっていないと思います。やはり古賀医師会長さんを私は非常に信頼しています。やはり彼もおっしゃられておりましたけれども、医師会と市民、私たち行政との間に溝があれば、それは一番困るのは市民だということをおっしゃっていましたので、ここに雪解けと書いてありますけれども、また雪解けをぜひ図って、市民の皆さんたちの地域の福祉の維持向上に、ぜひ私はみずから医師会の皆さんたちの御意見にも耳を傾けながら、ぬくもりのある元気な武雄市を創造したいというふうに思っています。

終わりになりますけれども、私が今、一番心配しているのは、この政権下における合併の話であります。私もいろんな民主党の議員さんで同期もいます。いろんな話があったときに、さらに合併を進めなければいけないという声が、新聞にはまだ出ていませんけれども、さまざまな勉強会等で出ています。そのときに1つの例を出すと、ある方がおっしゃったんですが、やっぱり今、自治体が1,800あります。これを300にまでしたいということもおっしゃっています。そのときにどうなるかということです。市町村合併は、英語で言うところとリストラです。そこにたえ得るような、本当に皆さんたちに今まで以上に、あるいは今までどおりの住民サービス、市民サービスを提供するには、今度の今出ているような合併、私も不可避だと思っております。そんな中で行政のかじ取りができるようにしなければいけないというふうに思っておりますので、ぜひ議会の皆様方、市民の皆様方の知恵を結集して、またいろんな仕事を市民の皆さんたちのために行ってまいりたいと、このように決意を新たにしているところであります。私からは以上であります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

3番山口裕子議員

○3番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にこの4年間も1市2町が合併して、一生懸命武雄市が元気になるようにとたくさんの方が頑張ってきたと思うんですね。思い出すのは、がばいばあちゃんの長老の方が本当に死なれん死なれんと言って、武雄市が元気にならんとと言ってボランティアを一生懸命されている姿は本当に、ああ、一人一人がそういう気持ちにならないといけないなというふうに私も思いました。

あと、自分のことであれですが、子どもが4人いまして、3番目の18歳の子がことし卒業でした。その保護者代表のお父さんが、この18歳の子どもたち、本当に厳しい中、果たしてお父さんやお母さんたちは、あなたたちに本当に話を聞いてあげたり、余裕を持って子育てができたかどうかというごあいさつをされたときに、本当に厳しい中、武雄市もそうだけど、本当に前向きにがむしゃらにみんなやっていると思うんですね。子どもたちもわかってくれると思うんです。そういう姿勢だけは、みんなが一生懸命やろうよと、一致団結しようよという気持ちさえあれば、子どもたちはわかってくれるだろうと私も思っています。

だから、私はこれからの武雄市政について、また先ほどの市長の話聞けば、今後、1,800が300になるなんてことは想像できませんが、本当に武雄が元気になるために私たちは一生懸命前向きに生きていかなければならないし、本当にいろんな問題に立ち向かっていかないとけないなというふうにこの4年間思わせていただきました。さらにまた、形は変わるかもしれませんが、武雄市がよくなっていくことを願って、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。